

# 夢への架け橋

～僕らの創る福祉の未来～

加世田常潤高校・生活福祉科

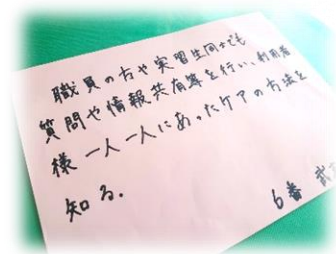
NEWS レター

第2号(2023.6.27)

## 「介護実習への思いと私の目標」(文責:武末)

私たち二年生は、7月と9月にかけて計25日間、特別養護老人ホームと介護老人保健施設に分かれて介護実習をさせていただきます。私は実習に行くにあたり、「職員の方や実習生同士でも質問や情報共有を行い、利用者様一人一人にあったケアの方法を知る」という目標を立てました。その目標を達成するために、3つの取り組みを考えました。一つ目は、実習生同士の情報共有を行うことです。二つ目は、利用者様とコミュニケーションを取り、観察を行うことです。三つ目は、積極的に職員の方に質問し、ケアの方法を知ることです。

一年次の実習では短期間の実習で、今回の実習は25日間という長期間の実習となるため、コミュニケーションの取り方や、その方にあった支援を行うことができるかなどとても不安な気持ちがあります。しかし、利用者様と関わっていく事の楽しみもあります。前回の実習では、積極性が足りない事が課題になったので、今回の実習では自分から積極的にコミュニケーションを取り、利用者様の事を一つでも多く知っていきたいです。



## 「ふれあいと学び」(文責:有村)

6月2日、加世田中学校の一年生に加世田常潤高校の体験をしていただきました。生活福祉科では「モルック」と「手浴」の体験をしてもらいました。私は、モルックの係で、司会を担当して、中学生を盛り上げることに取り組みました。最初は緊張してうまく伝えられなかったため盛り上げられることができませんでしたが、少し慣れてきているるなことに気づくことができました。例えば、なぜ「モルック」というスポーツにしたのか、なぜ「モルック」は上から投げてはいけないのかという事を説明しました。

「なぜ?」という疑問が生まれそうなことを考え、いつ質問されてもいいように前もって考えることが必要だという事に気づきました。また、その時の状況を判断し中学校の皆さんが退屈しないように状況に合わせて対応を変えることが出来ました。このことを通して自分が取り組むべき事は、前もって考え行動することが大切だと学びました。



### 【編集後記】

「介護実習」は介護福祉士養成校である本校生活福祉科にとって学びの柱とも言える重要な学習です。学校で学んだ事(理論)と福祉現場での実習(経験)を統合させ、介護の専門性を高めていく土台となります。近隣の福祉施設の皆様にご協力をいただき実習が実施できます。事前学習においても、「介護の実習は人の生活や人生を教材にして学ばせてもらう」ということを繰り返し確認しています。そのことの意味を深く理解した上で介護実習に取り組んでほしいです。8月3日にも中学生体験入学を予定しています。介護現場の人材不足が叫ばれています。この介護の仕事の魅力は何なのか、福祉の良さとは何なのか、利用者の方との出会いを通して生徒から語られるストーリーが未来の福祉につながっていくのだらうと感じています。

(学級担任 岩川亮太)